

懸賞論文・文芸作品コンクール

専修大学には、充実した学生生活をサポートするシステムがそろっている。さまざまな支援、機会を活用して自分の可能性を広げよう。

鳳賞文芸に金谷沙織さん(文3)

2013年度「懸賞論文・文芸作品コンクール」(学生部主催)の優秀作品が決まり、12月19日に生田キャンパスで表彰式が行われた。応募論文33本、文芸作品46作の中から、最優秀の鳳賞には文芸作品部門で金谷沙織さん(文3・写真)の「愛し合う際の自然に発する興奮は美しい」が選ばれた(論文部門では該当なし)。受賞者には阿藤正道学生部長から賞状と記念品が贈られた。



表彰される柘植光彦学術賞(論文)の遠山さん



表彰される柘植光彦学術賞(論文)の遠山さん

入賞者とその作品名

- ▽懸賞論文 (敬称略)
 - 【柘植光彦学術賞】賞金10万円
 - ▽遠山智代(経済4)「高齢者観の見直しと健康寿命」
 - ▽高橋葵(人間科学3)「家族に起きた変化から考える現代の子ども」
 - ▽石村諒太(人間科学3)「学校教育の崩壊と教育問題」
 - 【優秀賞】賞金5万円
 - ▽赤木苑子(人間科学3)「主婦から見る女性の社会進出―労働意識の観点から―」
 - 【佳作】賞金2万円
 - ▽取屋直樹(商4)「ホワイト企業に対する株式投資のリターン」
 - ▽高橋葵(人間科学3)
 - ▽岡田捺未(文4)「人魚のように眠りたい」
 - ▽石山真(二部経済1)「惰性の顛末」
 - 【佳作】賞金2万円
 - ▽小泉拓麻(経済4)「コヒーレントここに置いてある」
 - ▽氷飽美紀(文4)「氷の行方」
 - ▽篠原雄太(文3)「ちぐはぐ」
 - ▽間庭百花(人間科学2)「八月のきみ」
 - ▽中田光政(院文修1)「パディタヤの暗く夜」
 - ▽文芸作品
 - 【鳳賞】賞金20万円
 - ▽金谷沙織(文3)「愛し合う際の自然に発する興奮は美しい」
 - 【柘植光彦学術賞】賞金10万円
 - ▽高橋いぶき(文4)「落日」
 - 【優秀賞】賞金5万円
 - ▽柘植光彦学術・文学賞
 - 文芸評論家で、専大出身の作家の育成に情熱を注いだ柘植光彦文学部名誉教授(2011年没)を記念し12年度に創設。遺族から寄せられた多額の寄付を基に優れた論文に「学術賞」を、文芸作品に「文学賞」を贈る。文学と格闘する学生に共感した遺志をくみ、同氏の東大在学中の作品集『大きな赤い太陽』(第1回文芸賞佳作入選作など3編を所収)を応募者全員に贈呈している。

サークル・ボランティア活動

充実した学生生活を

地域で防災・防犯・清掃活動

地域の防災・防犯活動、清掃活動などを行う本学のボランティア推進委員会の傘下団体である神田キャンパスの「SKV」(専修神田ボランティア)と生田キャンパスの「SIV」(専修生田ボランティア)の活動を紹介します。

SKV

う、と「SKV」(遠藤直哉代表・法2、会員57人)は2010年秋に発足した。翌年3月の東日本大震災を機に活動が活発化。「防災」と地域貢献を2本柱にし、防災技術の向上と一般学生の防災意識を高めることを目指している。

救命講習会に臨むSKVメンバー

活動は学外でも活発で、神田神保町周辺で行われるイベントへの協力など、災害時に備え日ごろから顔の見える関係を築いている。

12月22日、東京・日比谷コンベンションホールで開催された防災のアイデアを大学対抗で競う「第8回防災コミュニケーション&第一回防災アイデアコンテスト」に出場。副代表の井上稔之さん(法2)は120人の聴講者を前に「災害時に友を守る」をテーマに「いざ」という時に学内の備品をどのように設置し効果的に使うかを提案、特別賞を受賞した。

出場者のほとんどがゼミ生、研究生という中で、団体として活動する専大「SKV」の存在は目立った。井上さんは「学

内の救命講習会を週に1回開くようにし、学生の意識をさらに高めたい」と意欲を燃やす。

SIV

防犯に関する知識や活動方法を伝える研修会「セーフティかながわユースカレッジ」が12月15日、横浜市青少年交流センターで開催され、本学の「SIV」(齋藤郁代表・人間科学2、会員20人)のメンバー4人が活動事例報告を行った。写真。

安全で安心な地域社会に向け、従来の自主防犯団体に加えて、若い世代も活動に参加してもらお

漫画研究同好会

冬の朝

おでこビーフンのりお(経済1)



13年度後期国際交流奨励生 田中久姫子さん(人間科学3)

学生部の2013年度「後期」海外研修・国際交流奨励生が決定した。同奨励生は調査・研究活動、ボランティア活動などを目的に渡航する学生(個人・団体)を支援する制度で、選ばれた学生には奨励金が支給される。後期は春期休暇中の活動が対象。



氏名と渡航先、期間、渡航目的は次のとおり。▽田中久姫子さん(人間科学3・写真) タイ、チエンライの子どもたちへの日本語支援と彼らの将来を考える



書道研究会が学生部長賞に顕著な活動を行ったサークル・団体を表彰する

2013年度の学生部長賞に書道研究会(顧問・仲川恭司文学部教授、小林優里代表・人間科学2、部員68人)が選ばれた。▽書道研究会 第18回全日本高校・大学生書道展に出品し、2作品が準優秀作品に選ばれた。年2回の合宿をはじめ、第45回鳳書作展、第5回鳳選抜展 写真、互評会、図書館分館展示など日ごろから精力的に活動を行っている。

外国語のススメ 研究室

森住 信人 法学部准教授

LL研究室のコラムの執筆は、国際交流の仕事で一緒にさせていただいている寺尾先生に依頼されました。人の良さそうな笑顔で依頼されたので、気楽に書けるかなあ、と安易に引き受けてしまいました。しかし、過去のコラムを読むと、外国語を専門とする先生ばかりで、その内容は実体験を基にした、実際に「ためになる」ものである上に、しかも面白いものばかりでした。これは安請け合いをしてしまったと後悔しているところです。私は法学分野の刑法を研究しているのですが、刑法の研究にはドイツ語が必須です。日本の現行刑法はドイツ刑法の影響を強く受けて制定されたからです。大学院への進学を決めた際にそれを指摘されたときには、本当に困惑しました。しかし、

研究のためにはドイツ語を学ぶしかありません。ところで、研究目的で語学を学ぶときには、教科書等を読んで理解できれば、発音に難があっても差し当たり大きな問題ではありません。その後、いろいろな幸運に恵まれて、大学院在学中にドイツに留学する機会を得ました。しかし、読むことを中心に学んできたため言葉が通じません。言葉が通じないことは命に関わります。研究するためには、現地で生活できないと困りますので、これも必要に迫られて現地でドイツ語を学びました。必要は学習効率を向上させると思っています。皆さんもなぜ語学を学ぶのかを、あらためて考えてみると良いでしょう。(刑法担当) ※全文はLL研究室ホームページで

